

マニフェスト・デスティニー

1848年、ポーク大統領が仕掛けたメキシコへの侵略戦争に勝利し、メキシコの国土半分を強奪した頃、マニフェスト・デスティニーという言葉がアメリカ議会で強調されていた。マニフェスト・デスティニーとはアングロ・アメリカ版の選民という奇妙な概念のことである。19世紀の初めごろから北米人たちは、神の摂理により、大西洋から太平洋までの土地に住み、支配するよう運命付けられていると信じるようになった。その極端な信奉者は、北は北極圏から南はマジェラン海峡まで、ヤンキーは拡大を続けると考えていた。マニフェスト・デスティニーのイデオロギーとは生得の権利、宗教の自由、民主主義、共和主義、アングロ・サクソン気質、地理的宿命などが混ぜ合わされたもので、アメリカ人の地理的拡張を正当化したものである。40 当時のアメリカ人は未開墾の土地や未採掘の鉱物資源は如何なる国家といえども保有することは出来ないと信じた。この原住民を排除するための理論は次第にメキシコ人、その他に拡大されていった。「我々の人種以外は西半球を開拓、又は統治できない」とするマニフェスト・デスティニーは民族的優越主義の論理で、アングロ・サクソン・プロテスタント文明は先天的に誰よりも優っている、そして自由な地域を拡張するために共和政府と民主主義を推し進めるというものである。41

アメリカはこのドクトリンに沿って、ラテンアメリカへの外交政策を展開していった。その一環としてアメリカ国務省は中南米各地に多くの領事を配置した。メキシコでは国境の町や州都はもちろんのこと、重要と思われる都市には領事を置いた。領事本来の任務は経済活動に関する調査報告であったが、ひとたびメキシコで革命が勃発すると、彼らは重要な情報源となった。アメリカ国務省はひとたびメキシコで内乱が発生すると、誰よりも正確に情勢を掌握していたのである。

1913年5月、ディアスを国外に追い出したフランシスコ・マデロがクーデターによりビクトリアノ・ウエルタに暗殺され、政権を奪われて二月ほど経った頃、日米新聞の記者鷲谷精一がイーグルパスからピエドラス・ネグラスへ足を踏み入れた時から彼を監視していたのは、同市駐在領事ルーサー・エルスワースであった。エルスワースが外交官になったのは比較的高齢の四十四歳のときである。彼は以前、まだコロンビア領であったパナマで事業を行った経験からスペイン語に堪能で、最初の任地はベネズエラのプエルト・カベヨであった。彼は領事業務よりは諜報活動に手腕を発揮した。その頃、彼の任地では政府転覆を企てたゲリラ活動が行われていた。ゲリラが市の近くに出没するようになると、エルスワースは毎日自転車で前線へ出かけ、戦闘を間近に観て、ゲリラ兵士をインタビューし、ワシントンへ報告した。42

エルスワースは1903年10月12日付けでコロンビアのカルタヘナ領事に昇格した。アメリカはパナマ運河を建設する許可をコロンビア政府に要請していたが、埒が明かなかったため、業を煮やしてパナマで暴動を起こさせ、パナマを分離独立させる画策を行って

いた。エルスワースは諜報活動の手腕を買われて任命されたと思われる。しかし、彼の後任となる副領事が病に倒れ、プエルト・カベヨに半年以上も止まらざるを得ず、カルタヘナへ赴任したときには既にパナマは独立を達成していた。コロンビアにいる間にエルスワースはさらにスパイ活動に磨きをかけた。⁴³

1907年3月30日、エルスワースはチワワ州都の領事に任命された。アメリカに亡命したPLMがメキシコを攻撃するという情報を入手した国務省は、中立法違反者の取締りをエルスワースに期待した。彼が着任して間もなく、シウダー・ポルフィリオ・ディアス(現在のピエドラス・ネグラス)の領事ルイス・マーティンが体調を崩し、気候のよいチワワ市であれば健康を回復できるだろうと期待して、彼と場所を交代することを持ちかけた。エルスワースにとっても、中立法違反者の取締りには国境にいるほうが好都合であった。こうしてエルスワースがシウダー・ポルフィリオ・ディアスにやってきたのは1907年10月1日のことである。彼は副領事に仕事を任せ、もっぱら情報収集に没頭した。

翌年6月26日、フロレス・マゴン主義者の一団がシウダー・ポルフィリオ・ディアスの北西五十六マイルにあるラス・バカス(現在のシウダー・アクーニャ)に駐屯していた連邦軍守備隊を攻撃した。ゲリラはテキサス州デルリオからリオグランデを渡って侵入し、数時間撃ち合って山中へ逃れた。ディアス大統領はアメリカ政府に抗議し、アメリカからの武装介入を厳重に取り締まることを要求した。リカルド・フロレス・マゴンと数人の幹部は前年八月に逮捕されていたが、ディアスはさらに関係者の逮捕を要求した。ルーズヴェルト大統領はこれに応え、直ちに軍隊を派遣して国境のパトロールを開始した。⁴⁴

エルスワースはリーダーシップを発揮した。彼が作り上げたネットワークのメンバーは、法務省管轄下の捜査官とUSマーシャル、財務省のシークレット・サービス、アメリカ陸軍テキサス司令官、メキシコ軍地区司令官、両国の税関、移民官、領事関係者、テキサス・レンジャース、国境に隣接する郡の保安官、ディアスが雇った探偵などである。エルスワースは既に国務省きっての情報提供者となっていたが、法務省は国務省の許可を得て、彼を法務省の特別捜査官に任命した。1909年11月11日、彼は異例の人事により国務・法務両省に所属して中立法取締りを一手に掌握することになった。⁴⁵

メキシコではフロレス・マゴン主義者と関係のない新たな革命運動が始まっていた。1910年2月、メキシコから亡命してきた「民主主義モニター」という知識層向け新聞がサンアントニオで第一号を発行した。エルスワースはこれを翻訳して報告した。編集者パウリノ・マルティネスはメキシコで新たに結成された再選反対党のメンバーで、彼の新聞はディアス政府によって閉鎖された。その年の四月、フランシスコ・マデロが大統領候補になった。マゴン主義者の人気はあったが、アメリカで徹底的にマークされ衰えを見せていた。エルスワースは新たな運動が知識層に広がっていることに注目し、この年に予定されている大統領選挙において、メキシコ国民が自由に候補者を選べないようなことになれば、革命に発展する危険性があると警告した。⁴⁶

40. Matt S. Meier and Feliciano Ribera, "Mexican Americans/American Mexicans", Hill and Wang 1995, P55
41. W. Dirk Raat, "Mexico and the United States," The University of Georgia Press, 1992,1996 P63
42. Dorothy Pierson Kerig, "Luther T. Ellsworth; U.S. Consul on the Border during the Mexican Revolution", Texas Western Press, the University of Texas at El Paso, 1975, P7
43. Ibid. P8
44. Ibid. P11
45. Ibid. P25
46. Ibid. P27

[目次へ戻る](#)